

2022年  
9月号 No.1

# サルビア訪問リハビリ新聞

発行日：令和4年9月15日 発行者：医療法人社団英世会 介護老人保健施設サルビア  
〒191-0024 東京都日野市万願寺1-18-1 TEL042-589-3270 FAX042-589-3271



## 訪問リハビリ新聞発行にあたって

日々、訪問リハビリをしている中で利用者さんやご家族から様々な話を聞かせて貰っています。日々の生活、家族、昔の話。昔の話の中では幼少期の思い出、仕事、結婚の趣味と本当に様々な内容です。また病気を患って、そして年を取った今、感じている様々な悩みや葛藤の話もあります。

そんな話を伺う中で皆さんの声を形にしたい、共有したいと思うようになりました。そしてこの度サルビア訪問リハビリ新聞を作成しようと決心。内容は訪問リハや日野の話、また私が1番行いたかった訪問リハビリの利用者さんやご家族の声を載せた「皆さんの声」です。ぜひサルビア訪問リハビリ新聞、特に「皆さんの声」を読んで感じた事があれば、我々に教えて貰えればと思います。

それにより皆さんの気持ちを少しでも共有できる新聞にできたらと思っています。基本的には毎月発行していく予定です。内容も随時更新して、より良い物にできればと思っています。宜しくお願い致します。

## 皆さんの声 九十年代 男性

### 中学校の思い出

中学生時代、茨城県水戸市に住んでいた。当時の中学校では年一回の行事として「八十km鍛錬行軍」があった。内容はと言うと、夕方の四時頃出発し、制限時間二十四時間で水戸から土浦を経て取手までの八十kmを歩く。途中関所があり、水や軽食があるものの、トイレは野で行い寝ずにひたすらに歩く。各関所では制限時間が設けられており、あまりの過酷さに途中で制限時間を超える者や、体調を崩してしまい脱落する生徒も珍しくなかった。

行軍日は四時からの出発の為、早めの夕食を済ませ、足にはゲートルを巻き行軍に備える。鍛錬という事もあり当日の朝は頑張らなくてはと意気込んでいた。実際に始まるとあまりの過酷さに道中の記憶はない。ただ行軍後、取手から戻る電車に乗る際、足が上がらなかつた事が今でも強く覚えていて。現在のご時世では考えられない行事である。

### 社会人の思い出

学生時代は茨城県の水戸市に住んでいた事もあり地元水戸市の銀行に就職。ただ兄弟が東京に居た事もあり、東京への憧れがあった。次第に憧れの感情は強くなり、東京支店に転勤。その後も当時の社会背景もあったが、銀行退勤後、様々な仕事を行った。

そして同僚が会社を立ち上げる姿を見た事や、当時勤務先の会社が倒産、また家族の為にどうにかしなければとの様々な思いから、プロパンガス会社を設立。当時、プロパンガスが世の中に普及する流れと重なり、とても多くの仕事が転がり込んできた。その中でも大型契約を結んだ際の喜びは今でも覚えている。ただもちろん苦労も多かった。様々な客の対応、急な夜間の出勤、泊まり込みでの仕事、車の事故等思い出すときりが無い。中には笑い話もある。プロパンガスを客に説明する際、どのようなパンなのかと質問された事もあった。今振り返ると、苦労はあったが苦しい思い出とは感じない。それ以上に楽しかった思い出として、当時の記憶が思い出される。

そして今、九十歳の年齢を超え、これからの生き方について聞いてみた。「一日一日を大切に。でも我慢はし過ぎない。気楽を信念に生きていきたい」と語られた。

今回、このような話を聞き、決して私自身は経験したくないような「八十km鍛錬行軍」は、とても強烈な経験から、今でも鮮明に覚えている事に、どこか羨ましさを感じた。また社会人では数えきれないほどの苦労をされたが、楽しい思い出として語られている。私も年を重ねた際、楽しかったと思える人生を歩んでいきたい。

### 編集部員のつぶやき

今回、サルビア訪問リハビリ新聞作成にあたり、改めて新聞を読んでみた。

移動時間の有効活用と思い、電車の中で新聞を読む。ただ居心地が悪い。なぜだか恥ずかしさも感じる。新聞を読んでいる人が少ないからだ。

慣れないからか電車の中だと新聞がうまくめくれない、折れない。コロナ禍もあり、隣の人に触れると嫌がられる。

折る度にながさがさと音もなる。寝ている客の視線も痛い。

もう新聞は家で読む物になったのかと思家て読む。床で座って読んでいると腰が痛くなり、寝転がりながら読む。

そんな私に妻が一言。「なんだかオヤジみたい」。

もう少し読みやすくお洒落な新聞にはなれないものか。

訪問リハ新聞編集部 佃文王